



★今月号より連載開始のコラム「午後のシエスタ」を担当する★

フォトグラファーの長島 毅さんにお話を伺いました

今回ご登場いただくのは、新連載コラム「午後のシエスタ～バナナ園発～」を担当していただくフォトグラファーの長島毅さん。長島さんは、女性ファッション誌やキッズファッション誌、カタログなどを中心にカメラマンとして活躍、また、バナナ園グループのパンフレット等にも写真を提供していただいています。

編集部：長島さん今月号から、このBANANA NEWSでコラムを担当していただくことになりました。よろしくお願いたします。さて、そもそもカメラマンになったきっかけは？

長島：もともと僕はサカ-小僧で、サカ-の周辺で飯を食べていければと考えていました。残念ながら夢は叶わず(笑)、大学卒業後一年間、アジア、オセアニアを放浪、その時、各地を撮影して歩いたことが写真との出会い。帰国後写真家の島村龍太郎氏に師事、4年半修行の後、独立しました。

編集部：カメラマンと言うと、やはり師匠-弟子、そして修行の世界ですね。

長島：そうですね、やはり大学を出て会社に入ってすぐ仕事というようなわけにはいきません。僕がこの世界に入った頃はまだ銀塩カメラの時代ですから、師匠の撮影時のフィルムの装填から版持ち、撮影の手配等々をしながら仕事を覚え、技術を学んでいくのです。徒弟制度に近いかもしれません。また独立するためには仕事を取れるように人間関係も作らなければなりません。



長島毅くながしまつよし  
フォトグラファー、1971年生、川崎市多摩区在住。大学卒業後1年間の放浪の後、島村龍太郎氏に師事。4年半の修行を経て独立。主にファッション誌を中心にカメラマンとして活躍中。

編集部：普段は華やかなファッションのお仕事をしているわけですが、どのような雰囲気なのでしょう？

長島：まず最初に、撮影の現場はファッション関係と言っても華やかな雰囲気ではありません。まさに戦場のような様相でカメラマンはどこへ行っても汗だくです。また皆プロとして仕事に臨む訳ですから緊張もします。但し素晴らしい事にモデルさんはプロですからどんなに暑くても不思議と汗はかきませんが...ファッション誌のモデルが汗かいていたら話にならない、空調の効いた高齢者施設の方がカメラマンとしては仕事はしやすいかも知れません(笑)。

編集部：そうですね、プロの現場はどこも厳しいものですね。さて、高齢者の皆さんを撮りたいとお考えになった動機は？

長島：実は大学は福祉系の大学<日本福祉大学>を卒業しています。ゼミで高齢者の施設に実習に行きましたがその時は若かったこともあり「これは僕には出来ない」と感じました。その後プロのカメラマンとして独立したわけですが、実は2年前に父を亡くしたとき、カメラマンでありながら歳を取ってからの父を殆ど撮影していなかった事に気がきました、「後の祭り」です、母や家族のためにも撮っておくべきだと思い後悔もしました。今回、バナナ園のグループホームを訪れて驚いたのは、実に仲間とした入居者の皆さんにお会いでき、様々な「笑顔」に触れることが出来たことです、ご家族や多くの皆さんに写真という媒体を通してそんな「笑顔」を紹介出来ればと思ったのです。

編集部：実際に高齢者の皆さんを撮影した感想はいかがでしょう？

長島：出来るだけ「普段」の皆さんを撮るように努めましたが、やはりレンズを向けると緊張はされていたようです。しかし、帰り際に皆さんに「ありがとう、また遊びにいらっしやい。」と言われた時はちょっと感激しました。普段僕にとっての被写体はプロのモデルさんやファッションに関わる「モノ」が多いわけですが、こうして「ドキュメンタリー」を撮影するというのもカメラマンとしての視野や技術を磨く上で重要なこと。僕も川崎市民、いずれ撮りためた素材をもとに展覧会等を開き、施設と地域の架け橋になれば最高ですね。

編集部：今日はどうもありがとうございました。連載も楽しみにしています。

～女性狂言師十世三宅藤九郎さんをむかえて～  
バナナ園生田の杜「狂言教室」スタート!!

日本でもトップクラスの女性狂言師、和泉流の十世三宅藤九郎さんを講師に迎えた「狂言教室」が8月27日宮前区のグループホーム「バナナ園生田の杜」にて施設の高齢者と共に地域の皆様をお迎えしスタートしました。約1時間半受講者の皆さんは、先生とともに狂言の発声方法とともに、その所作を学び、更に狂言小謡『柳の下』を練習しました。参加されたMさん(女性)は「姿勢を正し大きな声を出すとストレスの解消にもなります。先生のようにとは言わないが、きれいに声が出せるように頑張りたい」と抱負を語ってくれました。またIさん(男性)は「伸びやかで張りのある声は聞いていても本当にカッコイイ、家に帰ってしっかり復習したい。」と意欲満々に話してくれた。この「狂言教室」は毎月1回、来年の3月まで、継続開催されます。 ※希望者全ての皆様に受講して頂く事が出来なかった事をお詫びいたします。



★長島毅のフォト&エッセイで綴る★  
**～午後のレストラン～**  
 ★連載第1回 川崎大師バナナ園発★

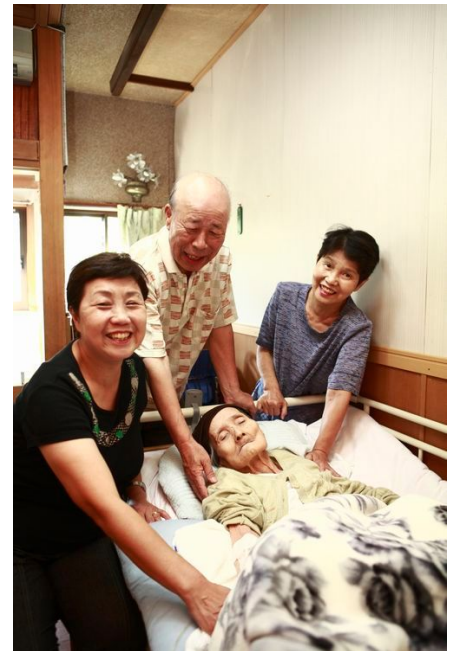


点滴のあとは、のどが乾いたようでお水を飲んでいますが。苦しいわけではなく、筋力も衰えているためなかなか飲み込めない。が、おばあちゃんは一生懸命飲み込んでいた。何度も。生命の力強さを感じた瞬間。

始めまして、フォトグラファーの長島毅です。今回、このコラムで連載を始めるにあたり、元来筆無精な私に文章で何かを伝えることができるのだろうか?とかなり不安を抱いている。まず、なぜバナナ園さんで写真を撮るようになったかを記しておこう。2年前からこの川崎市に住むようになり、ライワークとして何かドキュメンタリー的な写真を撮り、地域や地元の盛り上げに役立てて行きたいと考えていた時、もともとファッション誌でお世話になっていた美人デザイナーのKさんの旦那様がこのバナナ会の理事長をしておられるという事、早速『私の地元、川崎で何か人にスポットをあてた写真を撮り続けたいんです。』と相談した所、こころよく『それならうちの施設で撮って下さい、喜んでいただけると幸いです。』とのご返事。話はトントン拍子にすみ撮影どころかコラムまで書かせていただく事になった。連載は6回。果たしてどうなることか。乞うご期待！さて今回訪れたのは、川崎大師バナナ園。和風の一軒家を改築したアットホームな雰囲気の施設だ。ここに暮らす方々のほんの一面を紹介します!!



↑このおばあちゃんは、体調がすぐれないらしく毎日点滴をしている。針を押さえる看護師の方、身体を押さえる介護士の方、もう一人足下に点滴を押さえている介護士の方がいる。1人の為に合計3人。本当にハードワーク。針は少しでも動く和外れてしまう。腕の細さや、血管の細さの為、なかなか針も入らない。リビングでは他の方々がみんなで歌を唄っていた。



見舞いに訪れたご家族の方々。手を添えて話しかけながら。家族の声は届いたのかな?おばあちゃん笑っているのかな? →

PHOTO BY Tsuyoshi Nagashima

**登録ヘルパー/非常勤スタッフ募集中!!**

★あいケアサービス/IDSバナナ園★  
 ★宮前区新規オープン施設「バナナ園生田の杜」★

★バナナ園グループでは只今スタッフ募集中です★  
 ◆資格無くても可能職種あり◆

- 募集内容 ①非常勤登録ヘルパー<ヘルパー2級以上必要>  
 ②非常勤スタッフ<週2日以上勤務+夜勤可能な方>
- 給与: ①時給1150円<生活>~1750円<身体>  
 ②時給850~1000円<資格・経験考慮>
- 勤務時間 ①都合の付く時間でOK②9:00~17:00
- 休日: ①②シフト制による
- 勤務地: 中原区上丸子八幡町/幸区南加瀬・小倉
- ★上記宮前区オープン新施設スタッフについては  
 下記担当までお問い合わせください。
- 問合せ: 社会福祉法人 ばなな会 採用担当



☎044-433-4651

**グループホーム空室情報**

空室情報、入居に関するお問い合わせは右記  
 の各施設もしくは総合案内

**044-433-4651迄**



**バナナ園グループ**

- グループホーム「川崎大師バナナ園」☎044-280-2386
- グループホーム「バナナ園」☎044-588-0645
- グループホーム「第二バナナ園」☎044-587-1773
- 高齢者ケア付住宅「IDSバナナ園」☎044-580-3210
- グループホーム「バナナ園ほりうち家」☎044-722-5361
- グループホーム「のんびりーず」☎044-797-3314
- グループホーム「バナナ園生田ヒルズ」☎044-911-1599
- グループホーム「バナナ園生田の杜」☎044-789-5691、  
 ☎044-789-5692
- デイサービスバナナ園☎044-588-0890
- あいケアサービス☎044-433-4651
- すこやかケアプランセンター☎044-411-3120

月刊 MONTHLY BANANA NEWS (毎月1日発行)  
 通算第69号 編集:社会福祉法人 ばなな会  
 川崎市中原区上丸子八幡町816 ☎044-433-4651  
 <HP> <http://www.bananaen.com/>